

増設多核種除去設備薬液注入方法を踏まえた 貯蔵量増加量算出方法への反映について

平成30年4月26日

TEPCO

東京電力ホールディングス株式会社

©Tokyo Electric Power Company Holdings, Inc. All Rights Reserved.

無断複製・転載禁止 東京電力ホールディングス株式会社

薬液注入方法を踏まえた貯蔵量増加量算出方法への反映

TEPCO

- 気温変動によるタンク貯蔵量の変動等が「貯蔵量増加量」の算出結果に大きく影響を与えているため、以下の算出とすることを平成30年2月1日の『廃炉・汚染水対策チーム会合 事務局会議』にて説明、平成29年2月9日集約分より反映・変更済

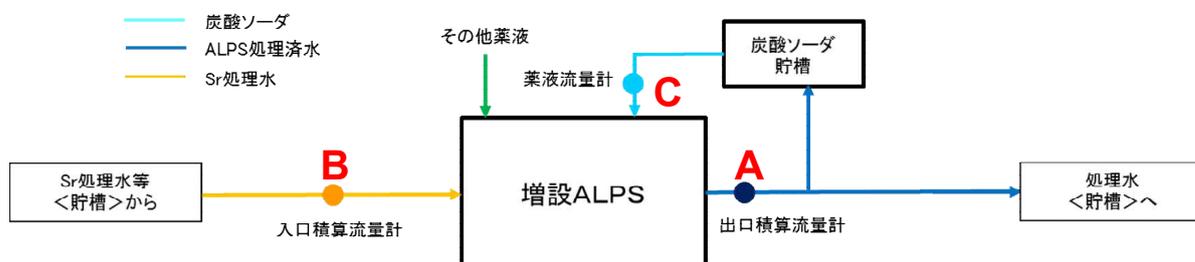
【旧算出方法】

貯蔵量増加量 = ①「1～4号機滞留水増減量」 + ②「集中ラド滞留水増減量」 + ③「各タンク貯蔵増減量」

【新算出方法】

貯蔵量増加量 = ①「地下水・雨水等流入量」 + ②「その他移送量（外部移送量 + ウェル・地下水ドレン）」 + ③「ALPS薬液注入量」

- 増設多核種除去設備（増設ALPS）薬液注入量は、これまで増設ALPS入口と出口の積算流量計の差分として算出していたが（薬液注入量=A-B）、増設ALPSに注入する炭酸ソーダは増設ALPSで処理した水を使用していることを踏まえ、H30年4月12日集計データ以降、炭酸ソーダ注入量は薬液流量計（C）から算出し、他薬液を含めたALPS薬液注入量=A-B-Cとし「貯蔵量増加量」を算出する

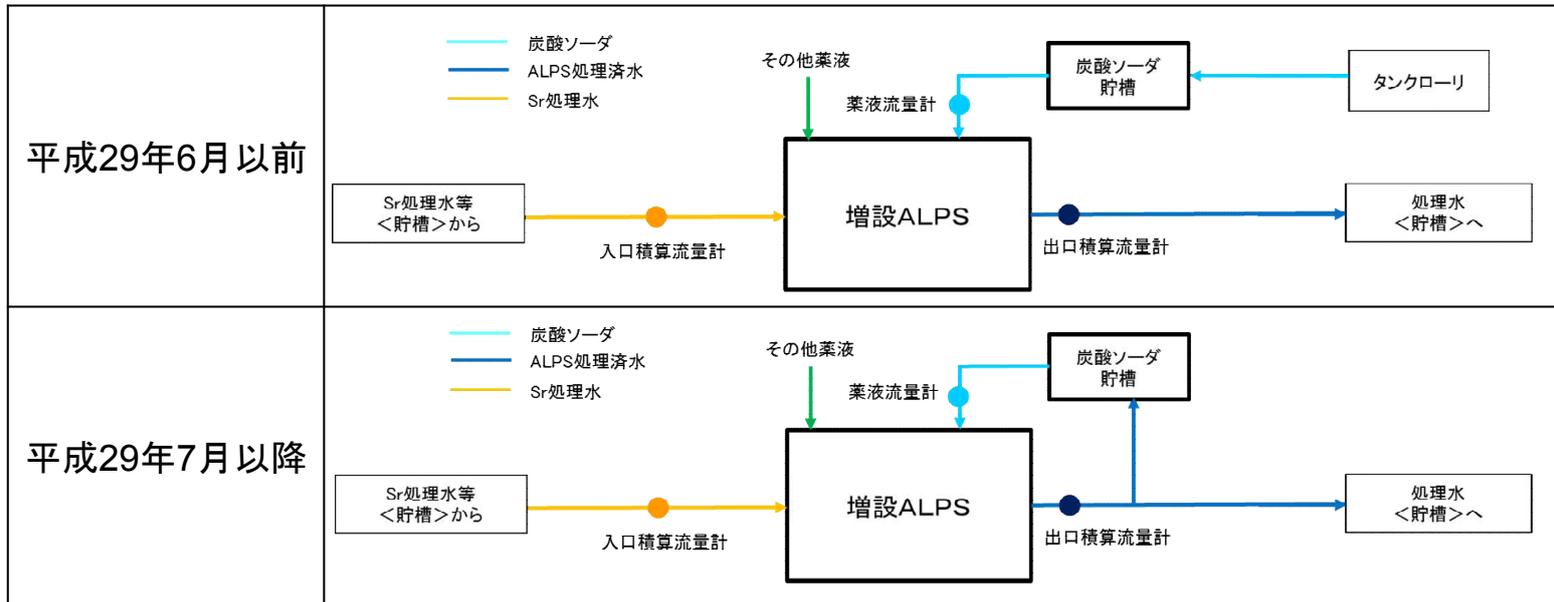


©Tokyo Electric Power Company Holdings, Inc. All Rights Reserved.

無断複製・転載禁止 東京電力ホールディングス株式会社

参考1：増設ALPSの炭酸ソーダ供給について

- 既設/増設ALPSでは、炭酸ソーダを前処理設備へ供給し、炭酸塩沈殿処理を実施
- 増設ALPSは、平成29年7月より増設ALPSの処理済水を用いて炭酸ソーダを供給
- 炭酸ソーダの供給量は処理量の約1.4%に相当するため、処理量が400m³/日の場合、汚染水発生低減量は約5.6m³/日となる



参考2：既設ALPSの炭酸ソーダ供給について

- 既設ALPSは、増設ALPSの処理済水を用いて炭酸ソーダを供給することとし、実施計画を申請し改造工事を実施中
 - 現在の計画では本年6月頃より供用開始
- 炭酸ソーダの供給量は処理量の3.6%に相当するため、処理量が400m³/日の場合、汚染水発生低減量は約14.4m³/日となる

増設多核種除去設備

